

【短報】

トックリスゲ (カヤツリグサ科) の国内分布

矢野興一<sup>1,\*</sup>・天野正晴<sup>2</sup>・仲宗根忠樹<sup>3</sup>・齊藤由紀子<sup>4</sup>

<sup>1</sup>岡山理科大学生物地球学部 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1;

<sup>2</sup>一般財団法人沖縄美ら島財団 〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川 888;

<sup>3</sup>株式会社 Tsudoi Company 〒904-0117 沖縄県中頭郡北谷町北前 259-15;

<sup>4</sup>琉球大学教育学部 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1)

Okihito YANO<sup>1,\*</sup>, Masaharu AMANO<sup>2</sup>, Tadaki NAKASONE<sup>3</sup> and Yukiko SAITO<sup>4</sup>:  
Distribution of *Carex rhynchachaenium* C. B. Clarke (Cyperaceae) in Japan

<sup>1</sup>Faculty of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science, Ridai-cho 1-1, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama 700-0005, JAPAN; <sup>2</sup>Okinawa Churashima Foundation, Ishikawa 888, Motobu-cho, Okinawa 905-0206, JAPAN; <sup>3</sup>Tsudoi Company. Co., LTD., Kitamae 259-15, Cyatan-cho, Okinawa 904-0117; <sup>4</sup>Faculty of Education, University of Ryukyus, Senbaru 1, Nishihara-cho, Okinawa 903-0213, JAPAN)

\*Corresponding author: oki.yano@gmail.com

(2023年5月30日 受理)

はじめに

スゲ属トックリスゲ *Carex rhynchachaenium* C. B. Clarke (カヤツリグサ科) は樹林内に生育する多年生草本である (星野ほか 2011, 勝山 2015)。本種は、台湾、フィリピン、ベトナムから知られていたが、勝山 (2006) によって沖縄本島国頭村の常緑広葉樹林下の斜面に 30 株ほど生育していることが見出され、日本にも分布することが明らかになった。沖縄本島でも国頭村以外の自生地は知られておらず (勝山 2006, すげの会 2018)、分布が限られることから、環境省のレッドリスト 2020 (環境省ホームページ) では絶滅危惧 IA 類にされている。

著者らは、日本産絶滅危惧スゲ属植物の保護・保全のための基礎研究の一環として、2022年11月にトックリスゲの生育状況を明らかにするために、沖縄本島で現地調査を行なったので、その概要を報告する。

沖縄県産トックリスゲ標本

沖縄県産のトックリスゲは、国頭村与那の琉球大学演習林内で 2006 年 10 月 30 日に勝山輝男他によって採集され (勝山 2006)、神奈川県立生命の星地球博物館 (KPM) にその証拠標本 2 点 (KPM-NA0126376 & NA0126377) が収蔵されている。勝山 (2006) では、さらに国頭村与那覇岳で 1970 年 1 月 13 日に S. Tamaki (玉木靖一) に採集された琉球大学理学部植物標本室 (RYU) に収蔵されている標本 1 点 (RYU-21092) を引用している。この RYU の標本は、花穂が雄小穂しか残っておらず、ラベルには採集地『Mt. Yonaha, Isl. Okinawa』(沖縄島 与那覇岳) 以外の詳細な地名が書かれていない。さらに、標本ラベルには初島住彦によってハウザンスゲ? *C. hoozanensis* Hay.? と同定されており、1986 年 2

月には清水孝浩によって“オキナワスゲ *C. breviscapa* C. B. Clarke と思いますが”と注釈されている。また、標本台紙には、“オキナワスゲではない ヒメモエギスゲ?”と記入者不明のメモがあり、[2006 年] 10 月 31 日に勝山によって“トックリスゲ (ハツシマスゲ) と思われる”とメモ書きがされている。したがって、与那覇岳のトックリスゲはその実体は不明であった。

岡山理科大学植物標本庫 (OKAY) には、2006 年に勝山によって見出された国頭村産トックリスゲの栽培株を 2007 年 11 月 8 日に標本にした 1 点 (OKAY-21672) が収蔵されている。

『日本産スゲ属植物分布図集』(すげの会 2018) では、勝山によって国頭村で採集された上記の標本 3 点のみが引用されている。

### 現地調査

調査は 2022 年 11 月 15 日～17 日に沖縄県名護市および国頭村で実施した。名護市では、著者の一人仲宗根がトックリスゲが自生していることをすでに見つけており、その産地情報をもとに実施した。その結果、山地のやや開けた湿った林床の限られた範囲に 20 株ほどが生育していることが確認できた (図 1A)。名護市の自生地は、これまでに生育が知られている国頭村の自生地よりも南に位置している。

一方、既存の自生地である国頭村与那の琉球大学演習林内では、今回の調査では残念ながらトックリスゲを見つけることができなかった。

また、RYU 収蔵の与那覇岳で採集されたトックリスゲの実体を確かめるために、与那覇岳においても現地調査を実施した。その結果、山地のやや開けた湿った林床の限られた範囲にて 10 株程度生育していることが確認できた (図 1B)。したがって、今回の調査により、トックリスゲは与那覇岳に分布することが確認され、1970 年に玉木によって採集された標本もトックリスゲと考えられた。『与那覇岳 (沖縄島) のスゲ属植物』(高良 2007) では、与那覇岳においてトックリスゲは未確認とされているが、今回の調査で確認することができたため、与那覇岳産のトックリスゲは 1970 年以來の再発見と考えられる。

今回の調査において、国頭村のこれまでに知られていた自生地以外にも、名護市と国頭村与那覇岳でも生育していることが明らかになった。この両場所では近縁のオキナワスゲがほぼ同所的に生育しており、これまではトックリスゲをオキナワスゲの貧弱な個体と考え、見過ごされてきたのかもしれない。そのため、トックリスゲとオキナワスゲを正確に同定することにより、沖縄本島でのトックリスゲのさらなる自生地の発見が期待できそうである。

### 証拠標本

証拠標本は岡山理科大学植物標本庫 (OKAY) および琉球大学教育学部植物標本室 (URO) に収蔵した。なお、トックリスゲは希少植物であるために、詳細な地名情報は省略した。

沖縄県. 名護市 (矢野興一・天野正晴・米倉浩司 s.n., 15 Nov. 2022, OKAY, URO), 国頭村与那覇岳 (矢野興一・天野正晴 s.n., 17 Nov. 2022, OKAY, URO).

### 確認標本

沖縄県. 与那覇岳 (S. Tamaki s.n., 13 Jan. 1970, RYU-21092). 国頭村 (勝山輝男・高良拓生・中山博子・支倉千賀子 s.n., 30 Oct. 2006, KPM-NA0126376 & NA0126377; 栽培株 勝山輝男 s.n., 8 Nov. 2007, OKAY-21672).



図 1. 沖縄県産のトックリスゲ. A: 名護市の自生地 (2022年11月15日撮影). B: 与那覇岳産トックリスゲの花穂 (2022年11月17日撮影).

### 謝辞

現地調査を遂行するにあたり、勝山輝男氏 (神奈川県立生命の星・地球博物館)、阿部篤志氏 (沖縄美ら島財団)、米倉浩司氏 (沖縄美ら島財団)、高嶋敦史氏 (琉球大学)、島袋千秋氏 (琉球大学) にお世話になりました。また、大西亘氏 (神奈川県立生命の星・地球博物館)、傳田哲郎氏 (琉球大学) には標本閲覧の便宜をはかっていただきました。記してお礼申し上げます。本調査の一部は JSPS 科研費 (22K05697, 研究代表 矢野興一) および 2022 年度藤原ナチュラルヒストリー振興財団助成研究 (研究代表 齊藤由紀子) の助成を受けて行いました。

### 参考文献

星野卓二・正木智美・西本眞里子 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 778 pp. 平凡社, 東京. 環境省ホームページ. 別添資料3 環境省レッドリスト (2020).

(<https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>, 2022年11月18日閲覧).

勝山輝男 2006. 沖縄本島でトックリスゲ *Carex rhynchachaenium* を見出す. 植物地理・分類研究 54(2): 154–156.

勝山輝男 2015. 日本のスゲ 増補改訂. 391 pp. 文一総合出版, 東京.

すげの会 2018. 正木智美 (編), 日本産スゲ属植物分布図集. 766 pp. すげの会, 岡山.

高良拓夫 2007. 与那覇岳 (沖縄島) のスゲ属植物. すげの会ニュース (13): 4.